

令和8年度 多摩市公立小学校長会

I 活動方針・重点事項等

不登校・いじめ・児童虐待・ヤングケアラー・SNS・食物アレルギー等、学校が対応する課題は複雑化・困難化している。また、猛暑日の増加、物価の上昇、労働人口や児童数の減少等により、これまで当たり前のようになってきた学校の教育活動の見直しを迫られている。

次期学習指導要領改訂に向けた中央教育審議会に取りまとめられた論点整理では、「主体的・対話的で深い学びの実装」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」が示されている。その一方で、いわゆる給特法の改正による教職調整額の引き上げ、GIGAスクール構想による校務の効率化の予算措置、小学校教科担任制のための教員加配等の教員の働き方改革に向けた措置が段階的になされており、持続可能な社会の担い手となる児童の育成と教職員の働きやすさを両立した学校経営の具現化を校長は求められている。前年度の校長会等の情報交換では、以下のような市内小学校における課題が出された。

- ・タブレット端末等のICT機器活用の際、配慮が必要となる健康や発育の阻害・ネットモラル・SNSトラブル等への対応
- ・合理的配慮や特別支援学級（教室）への転籍・入退級に関する家庭への働きかけ等の際の学校と関係機関の連携・協力体制の充実
- ・PTやEA等の人材確保及び学校の実態や個々の事情に応じた柔軟な勤務への対応
- ・教員の働き方改革の推進と教育活動の質の向上の両立
- ・質の高い教員を確保するための学校の魅力の発信及び経験年数の浅い教員の計画的なOJTの実施
- ・校外学習や移動教室等の変更や中止等の影響が出始めている貸切バス代金の高騰への対応
- ・年間を通した感染症の流行や夏季の気温上昇に対応した教育活動の工夫 等々

多摩市公立小学校長会の17人は、多摩市教育委員会及び多摩市公立中学校長会と連携を図り、学校を取り巻く課題の解決に向けて取り組んでいくことを通して、教育管理職としての資質を高め、学校経営力のさらなる向上を目指していきたい。

◎活動の基本方針

校長としてのリーダーシップを発揮し、課題解決を図る「職能集団」として、全校が創意と活力のある学校経営を実現し、新しい教育活動を推進するために、情報の共有や研修に努める。

II 活動・取組

「活動の基本方針」を受け、今年度の「活動・研修の重点」を次の4点とし、活動・研修を通して、各校の校長が相互に切磋琢磨し、多摩市の子供たちのために高め合う会とする。

- (1) 「教職員の育成」や「教育課程の充実」等、各校の課題解決に向けて情報の共有を図る。
- (2) テーマを定め継続的に研修に取り組む。6月の関東甲信越地区小学校校長研究協議会山梨大会の「ともに生きる社会をつくる人権教育の推進」の発表に向けて準備を進める。
- (3) 多摩市教育委員会や多摩市公立中学校長会と連携し、学校教育の充実を図る。
- (4) 多摩市の特色である持続可能な開発のための教育・ESDと特別支援教育の推進を図る。

1 経営研修

- (1) 小中合同経営研修（講演会：小中合同1回、小のみ1回）
- (2) 校長・AB選考研修会（小中別に開催）

2 テーマ別研修

- (1) 研修テーマ「創意と活力に満ちた教育の推進と学校経営」
サブテーマ「豊かな人間性を育む教育の推進」
- (2) 研修方法
全体会・分科会、講師を招聘したロング研修会（夏季休業期間中）

III 地区の特色

新宿から電車で30分の緑豊かな地域である。ペDESTリアンデッキが続く、多摩ニュータウンを抱え、少子高齢化に直面している。ESDを推進し、毎年「多摩市子どもみらい会議」が開催される。